

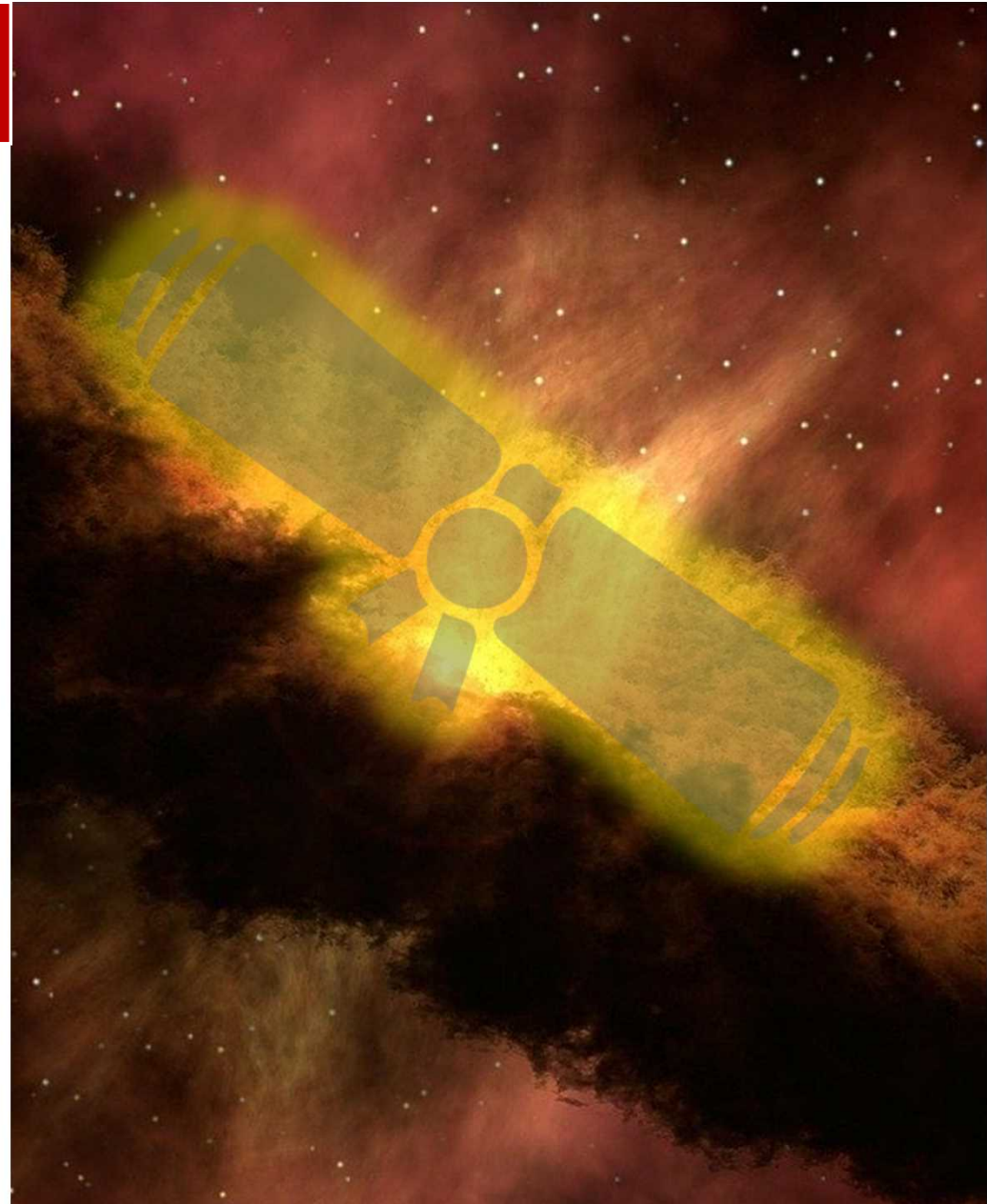
ざっくり
黙示録
外Ⅱ

終末論の いろいろ

携拳 大患難時代 千年王国 再臨

アウトライン

- I. 聖書の原則を確認しよう
- II. 千年王国論のいろいろ
- III. 携拳論のいろいろ
- IV. 終末論で変わる生き方



A photograph of a sunset over a field of tall grasses. The sun is low on the horizon, creating a warm, golden glow. The sky is filled with scattered, light-colored clouds. The grasses in the foreground are silhouetted against the bright light of the setting sun. A white banner is overlaid at the bottom of the image, containing the text "I. 聖書の原則を確認しよう".

I. 聖書の原則を確認しよう

世界についての二つの大きな考え方

★世界は、永遠。始まりも、終わりもない。

➡多神教。神道的・仏教的世界観。

★世界には、始まりがあり、終わりがある。

➡一神教。聖書的世界観・歴史観。



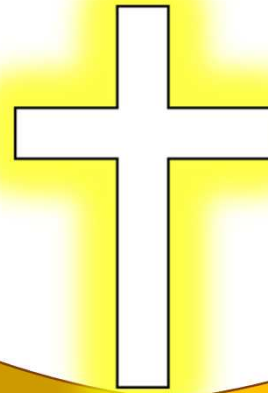
世界の終わりについての考え方 ➡ 終末論

聖書の世界観には、初めがあり、終わりがある

天地創造
人類の墮罪

キリストの
十字架の
死と復活

世界の回復
キリストの
再臨



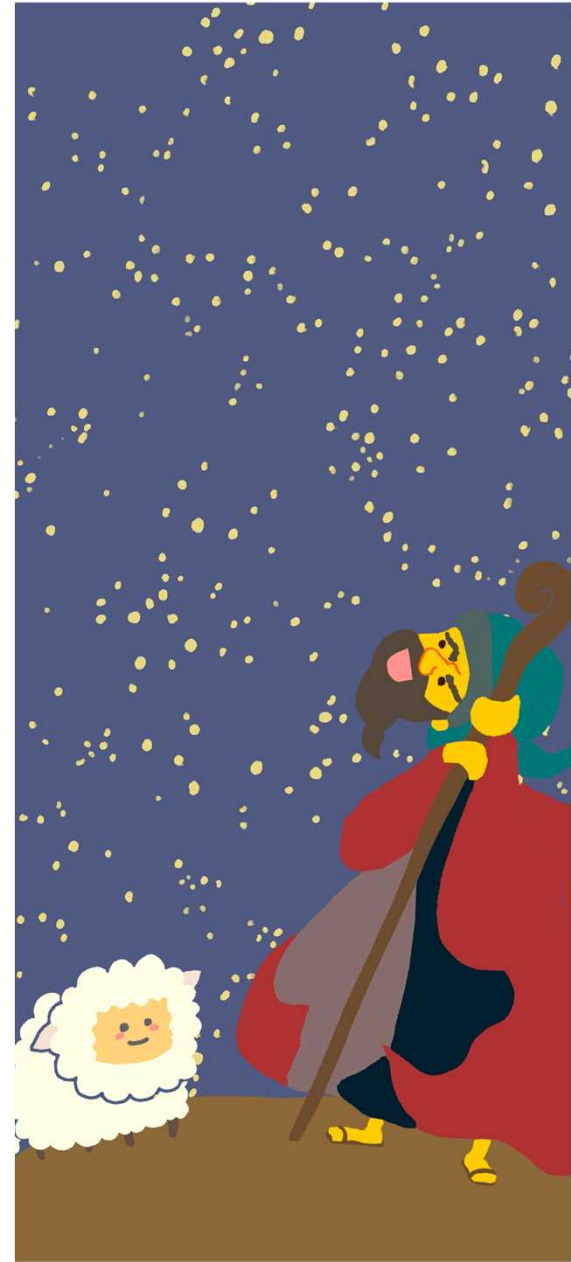
ゴールは、世界の回復。理想世界の実現

聖書の救いの大原則・信仰義認

創 15:6 「アブラムは【主】を信じた。
それで、それが彼の義と認められた。」

➡ **ただ主を信じて救われる。**
(聖書の救いの大原則)

※行いは、信じた結果として現れるもの。
行いによって救われるのではない!!



【神の計画の中心・アブラハム契約】

聖書全体を貫く、大原則。

神の世界回復と人類救済計画の柱。

アブラハムとその子孫(イスラエル)に結ばれた。



【三つの主な条項】

- ① **子孫の約束** ...アブラハムの子孫が繁栄する。
- ② **土地の約束** ...アブラハムと子孫に約束の土地が与えられる。
- ③ **祝福の約束** ...アブラハムの子孫から誕生する**メシア**が、全人類を救いに導く。

神は、約束をいつか必ず完全に果たされる

聖書の歴史・イスラエルの歩みに学ぶ終末の原則

- 神は、イスラエルを導く規範として**律法**を与えた。
律法を守るなら祝福が、破れば呪いがあると教えられていた。
- イスラエルの地上の王国は、民の不信仰の結果、滅ぼされた。
- 神が忍耐して一から育んだ、選びの民イスラエルすら失敗した。
結論 → 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。

神の王国は、神が送るメシアによって建てられる！

聖書の原則を終末論を考える土台にしよう

- 人は、ただ主を**信じて**、神の怒りから救われる。行いによるのではない。
- 義なる神は、**約束**を完全に果たされる。
- 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。
- 神の王国は、神が送られる**メシア**によって建てられる。



Ⅱ. 千年王国論のいろいろ

聖書預言についての4つの異なる考え方

① **歴史主義** ...聖書預言は、すべて**教会のこと**である。
教会の歴史の過程で実現されていっている。

② **過去主義** ...聖書預言は、**1世紀にすべて成就** →「全的過去主義」
黙示録の最後だけ将来成就する →「部分的過去主義」

③ **観念主義** ...聖書預言は、**信者の霊的体験**のこと。
文字通り理解するべきではない。

④ **未来主義** ...実現されていない聖書預言は、**将来成就**する。

千年王国とは？ イザヤ書2:2～4

終わりの日に、**【主】の家**の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。

多くの民族が来て言う。「さあ、**【主】の山、ヤコブの神の家**に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてくださる。私たちはその道筋を進もう。」それは、**シオン**からみおしえが、**エルサレム**から**【主】**のことばが出るからだ。

主は国々の間をさばき、多くの民族に判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず、もう戦うことを学ばない。



エルサレムが
世界の中心に

主が全世界を
平和に治める

千年王国とは？ エレミヤ書33:14~17

「見よ、その時代が来る——【主】のことば——。
そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に
語ったいつくしみの約束を果たす。

その日、その時、わたしはダビデのために**義の若枝**
を芽生えさせる。**彼**はこの地に公正と義を行う。

その日、ユダは救われ、**エルサレム**は安らかに住み、
こうしてこの都は『【主】は私たちの義』と名づけ
られる。」

まことに【主】はこう言われる。「ダビデには、
イスラエルの家の王座に就く者が断たれることはない。」

アブラハム契約
の完全な成就

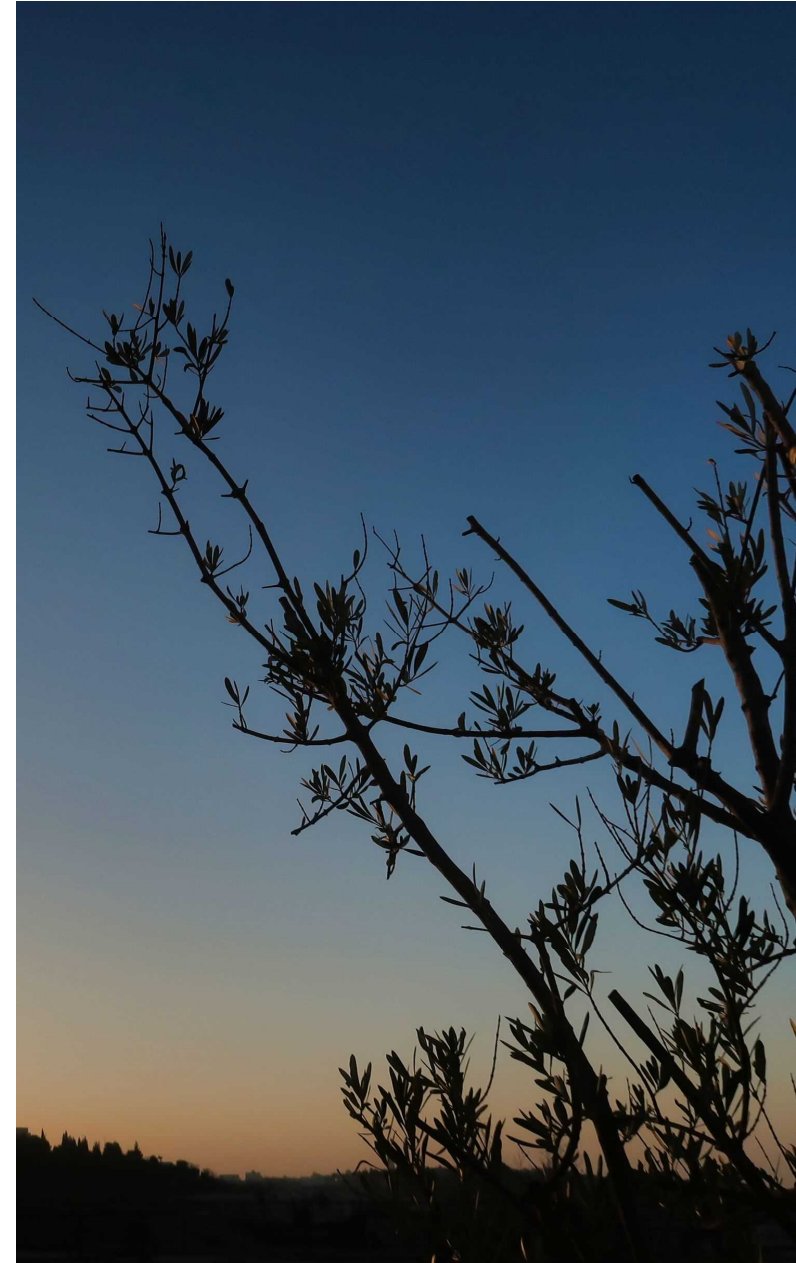
メシアが
世界の王に！

エルサレムが
永遠の都に

メシアが
永遠の王に！

千年王国とは？

- **メシア**が王となる神の国。
- 全世界が平和に治められる。
- **エルサレム**が世界の中心となる。
- **イスラエル**は、**メシア**と共に、**エルサレム**から世界を治める。
- **メシア**と**イスラエル**の支配は**永遠**に続く。



千年王国についての三つの説

- ① 千年期前再臨説** ...キリストが戻り、神の国を**地上に建設**。
神の王国は、千年間続く。初代教会の立場。
- ② 無千年王国説** ...神の国は**霊的**なもの。**教会こそ霊的な神の国**。
キリストは王として天から支配している。
国教化した教会で主流に。
- ③ 千年期後再臨説** ...神の王国は**人間の努力**によって完成する。
19世紀にアメリカを中心にプロテスタントに
広がるが、20世紀の世界大戦で衰退。

千年期前再臨説

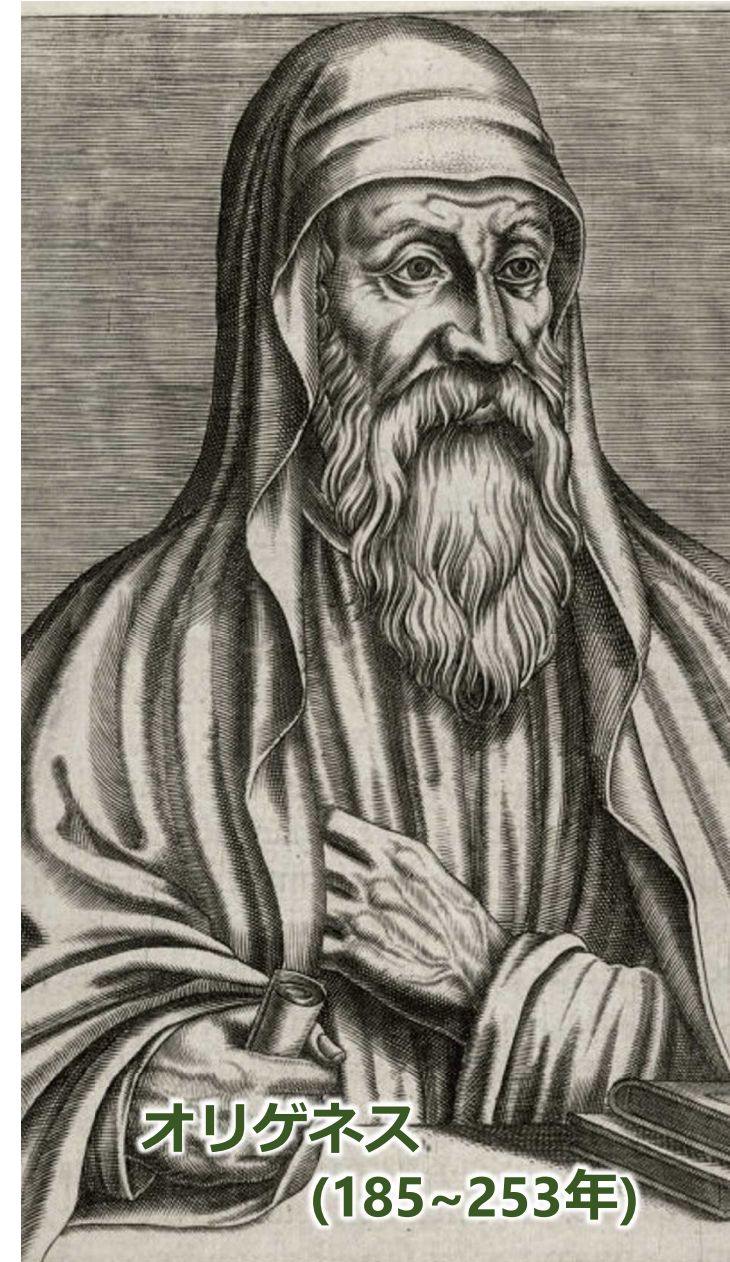
- 教会の初期には、**キリアズム**と呼ばれた。
(※キリアズムは、千という意味)
- キリストが再臨し、千年間統治する。
聖書預言は、**文字通り実現**する。
- **1~3世紀には主流**だった。
歴史資料から多くの歴史家も証言。
- 聖書の普及と共に、17世紀に回復。
- **キリアズム**こそ、最初にあった終末論。



ユスティノス
(100~165年)

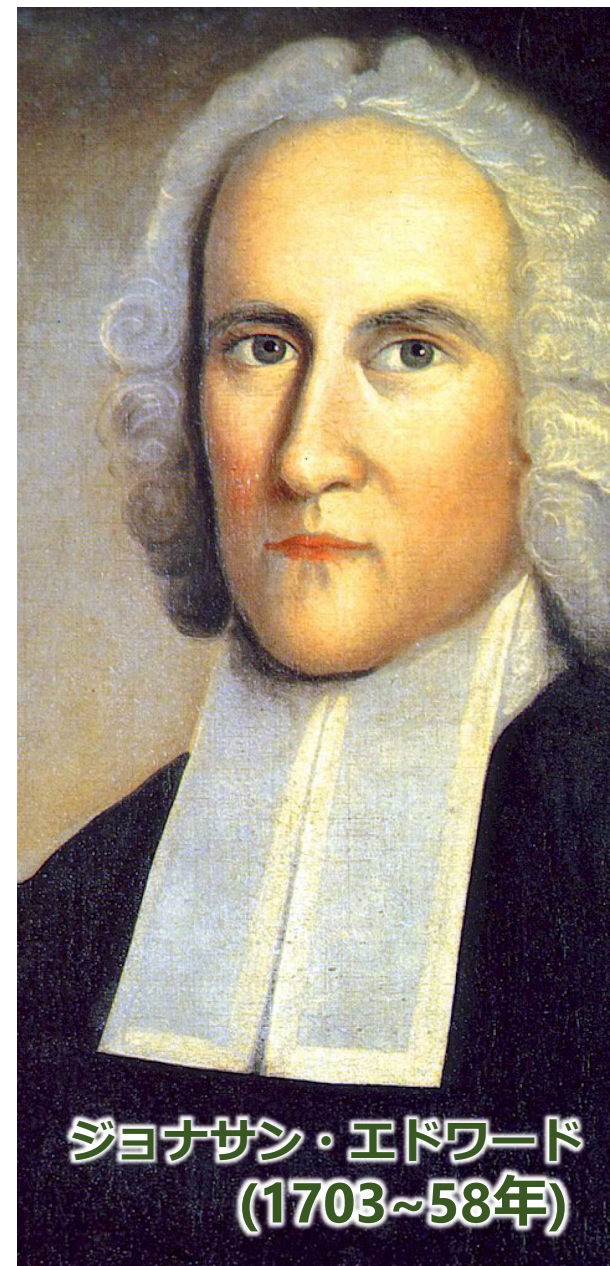
無千年王国説

- 東方教会では4世紀末には主流に。
➡反ユダヤ主義から、キリアズムを排除。
- **教会が霊的な神の王国**であるとする。
- **ギリシャ哲学**(霊は善、物質は悪)の影響。
オリゲネス(185~253)が**比喩的解釈**を提唱。
後にアウグスチヌス(354~430)も支持。
➡背景に、カトリック教会の勢力拡大。
- ルーテル派、改革派、聖公会も採用。
- 現代でも根強く支持される多数派。



千年期後再臨説

- 近世に出現し、19世紀に台頭。
背景に、近代の知的革命や産業革命。
- **人類は進歩し、黄金期を迎え**、キリストが再臨。
- 19世紀には、アメリカが全大陸を支配し、千年王国に導くと多くの牧師が説いていた。
- **歴史的楽観主義**は、世界大戦で吹っ飛んだ。
- **近年、再び台頭**。世俗的、反キリスト的に。



ジョナサン・エドワード
(1703~58年)

【三つの説の信仰的態度の違い】

- ① **千年期前再臨説** ...再臨したキリストが神の王国を建設する。
人間的努力の余地はない。あってもわずか。

- ② **無千年王国説** ...教会こそ、霊的な神の王国。
組織的教会の拡大こそが重要。

- ③ **千年期後再臨説** ...神の王国は人間の努力によって完成する。
教会の社会的な影響力の拡大が重要。



Ⅲ. 携拳論のいろいろ

教会の携挙・空中再臨とは？

- **教会**が、天のイエスのもとに挙げられること。
- この教会とは、会堂ではなく、地域教会でもなく、**普遍的教会・真の信者**のこと。
- ある瞬間、地上にいる、すべての真の信者が、突然、天のイエスのもとに生きたまま挙げられる。
- すでにパラダイスに召されている信者も共に、復活の体を与えられ、イエスのもとへ集められる。



携拳と再臨の違い

- ①携拳では、信者は**空中**で主と会う(I テサロニケ4:17)。
再臨では、信者は主と共に**地上**に戻ってくる(黙19:14)。
- ②携拳は、大患難時代の**前**に起こる(I テサ5:9,黙3:10)。
再臨は、大患難時代の**後**に起こる(黙6~19章)。
- ③携拳は、誰も気づかないうちに、**瞬時**に起こる(I コリ15:50~54)。
再臨は、**すべての人が目撃**する(黙1:7,マタイ24:15~30)。
- ④携拳は**目前**に迫っている(テト2:13, I テサ4:13~18)。
再臨は、**終末の出来事の後**に来る(Ⅱ テサ2:4,黙6~18章,マタ24章)。

携拳の時期に関する三つの節

①患難期前携拳説

...教会は大患難時代を通過しない。
携拳は、**今すぐにでも**起こりうる。

②患難期中携拳説

...教会は、大患難時代の前半を通過する。
第7のラッパ(黙11:15)の後、携拳は起こる。

③患難期後携拳説

...教会は、大患難時代を通過する。
携拳と再臨は、ほぼ同時に起こる。
➡カトリック、ギリシャ正教会、
多くのプロテスタント教会が支持。

患難期後携拳説

- **教会は、大患難時代を通過**する。
➡ 艱難期の「聖徒」は教会のこと。

聖徒は、大患難時代の回心者
大患難時代、教会は記されず

- **大患難は、サタンの怒り。**
再臨の主の裁きは、神の怒り。

サタンが大患難を起こす？
裁きを命じるのは主イエス！

- **携拳と再臨は連続**した一つの出来事。区別しない。

- **第一の復活**は大患難時代の後(黙20:4~5)、
I テサロニケ4:16の復活が、ここ。

- **すでに大患難時代**だと主張する人も。

不安をおおるだけでは？

患難期中携拳説

- **第7のラツパ**(黙11:15)がなると携拳が起こる。
➡これが終わりのラツパ(I コリ15:52)。

コリントの信者は、
第7のラツパは
知らない

- 教会は、**艱難時代の前半を通過**する。
反キリストは、中間に現れる。

聖書預言の
主の日は、裁き

- 背教 ➡不法の人の出現、➡主の日
“**主の日**(I テサ2:3)”を**携拳**と解釈。

- **神の御怒り**(I テサ5:9)は、大患難時代後半。

封印の裁きは、
御怒りではない？

患難期前携拳説

- 教会は、**大患難時代を通過しない**。
- 携拳は、**いつでも起こりうる**。
- 反キリストとイスラエルの契約が大患難時代の始まり。
- **教会**という言葉が大患難時代(黙6～19章)には出てこない。
- 患難期前携拳説だけが、**イスラエルを教会を一貫して区別**する。

大患難期前携拳説の聖書的根拠

(天から来られる)この御子こそ、神が死者の中からよみがえらせた方、やがて来る**御怒り**から私たちを救い出してくださるイエスです。 Iテサ1:10

神は、私たちが**御怒り**を受けるようにではなく、主イエス・キリストによる救いを得るように定めてくださったからです。 Iテサ 5:9

あなたは忍耐についてのわたしのことばを守ったので、地上に住む者たちを試みるために全世界に来ようとしている**試練の時**には、わたしもあなたを守る。 黙 3:10

しかし、兄弟たち。あなたがたは暗闇の中にいないので、**その日**が盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。 Iテサ 5:4

聖書の原則に一致するのは、大患難期前携拳説

- 人は、ただ主を信じて御怒りから救われる。行いによるのではない。
 - ➡ **ただ福音を信じた者が、携拳される。**
- 義なる神は、約束を完全に果たされる。
 - ➡ 信者は、**御怒りを免れ、携拳される。**
- 人は自分の力で理想世界を造ることはできない。
 - ➡ **将来のことは主に信頼し、福音宣教の使命に専念すればいい。**
- 神の王国は、神が送られる**メシア**によって建てられる。
 - ➡ **今の苦難は一時のもの。今を生きる力が与えられる。**



IV. 終末論で変わる生き方

確認しておくべき救いの原則

- ただ**福音を信じて救われる**。この原則は変わらない。
- 終末論の違いは、救いとは**無関係**。
- イエス・キリストの福音を信じた者は、すべて主にある**兄弟姉妹**。

終末論が多少異なっても、同じ福音に立っているなら、私たちは、クリスチャンとして共に歩んでいくことができる。教会がゆらぐのは、福音の根本、救いの原則が崩れるとき。

携拳も再臨も、信仰者の希望

- よく吟味した上で、一つの論に確信を持つのはよいこと。
- 「確定的でないことを断言すべきでない」と終末論を避けるなら、結局は、福音宣教もできなくなってしまうだろう。
- 見えないことを信じるのが**信仰**。確信して伝えるのが**福音宣教**。
- しかし、将来のことについて、100%正しいとは誰にも言えない。常に学びを重ね、自分自身を吟味する謙虚さを持つとう。

千年王国前再臨説・患難期前携拳説を支持する最大の理由

聖書が繰り返し教え、突きつけるのは、世界の現実。

人間はいかに罪深く、救いは神にしかないか。

世界の回復である神の国の建設は、
ただ、主イエスによってのみ、実現されること。

人間的な業の差し入る隙を全く与えない最も聖書的な終末論が、
千年王国前再臨説であり、**患難期前携拳説**

携拳も再臨も、信仰者の希望

- 人は、**信仰**によって神の怒りから救われ、**信仰**によって成長し、**信仰**によって主イエスの元に挙げられる。
- 信仰者に求められるのは、ただひたすら**主を信頼**すること。主の計画をさらに知り、主への信頼を深めて行くこと。
- 人間的な努力や行いを強調すると、「そんな信仰で大患難時代に耐えられるのか」と脅迫になりがち。
- **携拳の備え**とは、救われた喜びをもって、日々み言葉に親しみ、滅びゆく魂への思いをもって、救いの福音を伝えること。

目的のない社会に生きる人々へ福音を伝えよう

「日本の重大な欠陥は、**最終目的**を持たずに、人々が生きており、企業が活動しており、社会が成立していることである。個人的には、生きる意味などない、動物として生まれたから、運命と本能に強いられて、生きているだけだ、と思っているから、目的などないし、わからないということに共感を持つ。小幡 績(経済学者)」

■ 聖書は、人に**最終目的**を与える。

➔ 主が再臨される時、神の王国に入れられること。

■ 混沌とした時代、目的のない人々は、ますます病んでいくだろう。

➔ 聖書の記す、**最終目的**を人々に伝えていこう。

「天のお父さま。わたしは、御子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主イエスは来(こ)られ、すべての信者(しんじゃ)を 永遠(えいえん)の王国(おうこく)へ 招(まね)き入(い)れてくださいます。

すべての涙(なみだ)は拭(ぬぐ)われ、苦痛(くつう)が取(と)り去(さ)られる よろこびのときがきます。

主の最終目的(さいしゅうもくてき)を 人々に伝(つた)える者(もの)として ここから遣(つか)わしてください。

主イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。アーメン」



バイブルスタディ

★次回予告：2021年4月13日(火) 午前10時より

「新天新地」

★Zoomでの分かち合いのコーナーも!!

11時15分くらいから、分かち合いの時間を持ちます。

★4月の予定：4/13(火), 4/27(火)